

宮城県感染症発生動向調査情報(第11週)

宮城県【平成26年03月20日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

— 2014.3.10 ~ 3.16 ・ 第11週 —

上段は患者発生数、下段は定点当たり

疾病	保健所							宮城県(含む仙台市)						
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	仙台市 患者数	患者数	累計	第8週	第9週	第10週	第11週
水痘	17 3.40	11 1.10	1 0.20		1 0.33	3 0.60	1 1.50	3 0.42	47 0.81	614	○→	○→	○→	○
流行性耳下腺炎			1 0.20				2 1.00	5 0.19	8 0.14	127	→	→	→	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	31 6.20	59 5.90	22 4.40	32 16.00	24 8.00	23 4.60	6 3.00	202 7.77	399 6.88	6,326	◎→	◎→	◎→	◎
手足口病								1 0.04	1 0.02	15	→	→	→	
伝染性紅斑	2 0.40	10 1.00	8 1.60		2 0.67			20 0.77	42 0.72	393	○→	○→	○→	○
突発性発しん	1 0.20	5 0.50				5 1.00		16 0.62	27 0.47	326	○→	○→	○→	○
ヘルパンギーナ								1 0.04	1 0.02	1	→	→	→	
インフルエンザ	401 50.13	380 25.33	497 62.13	60 20.00	270 54.00	346 43.25	66 16.50	1684 40.10	3704 39.83	21,021	◎→	◎→	◎→	◎
咽頭結膜熱		1 0.10		4 2.00				5 0.19	10 0.17	90	→	→	→	
流行性角結膜炎		1 0.33						1 0.08		16	→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28 5.60	25 2.50	13 2.60	9 4.50	3 1.00	26 5.20		65 2.50	169 2.91	1,653	◎→	◎→	◎→	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	1 1.00			3 3.00	2 0.40	8 0.67	88	→	→	→	
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症	1 0.20	3 0.30	1 0.20					2 0.08	7 0.12	207	→	→	→	
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		2				2				◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意し し：発生が少なくなっている傾向			
	川崎病										【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページ をご覧ください。 http://www.ih.pref.miyagi.jp/~kansen-center/			
	不明発疹症							4			18			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)※														

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求められることになりました。

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群	0~4歳 (%)	5~9歳 (%)	10~14歳 (%)	15~19歳 (%)	20~29歳 (%)	30~39歳 (%)	40~49歳 (%)	50~59歳 (%)	60~69歳 (%)	70~79歳 (%)	80歳~ (%)	総数 (人)
2014年 第5週		20.1	36.3	16.9	2.7	5.1	7.5	4.6	3.1	2.6	0.6	0.5	1,567
第6週		21.5	36.5	17.2	2.0	4.8	6.2	4.9	3.1	2.3	1.1	0.5	2,076
第7週		17.4	39.7	19.8	2.5	3.5	6.4	4.9	3.4	1.4	0.7	0.3	2,305
第8週		18.2	39.2	22.3	2.5	2.5	6.3	4.4	1.9	1.7	0.5	0.4	2,554
第9週		19.8	38.7	22.4	2.0	2.5	5.1	3.3	3.1	1.8	0.8	0.4	3,271
第10週		18.3	40.8	21.7	1.9	2.8	5.7	3.9	2.6	1.3	0.5	0.5	3,626
第11週		18.4	43.4	20.1	2.5	2.0	4.2	4.0	2.2	1.0	0.7	0.4	3,704

インフルエンザ定点

インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第9週)

(国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は福井県(51.66)、大分県(42.14)、福岡県(41.56)である。入院サーベイランスにおける報告数は851例と前週と比較して増加した。47都道府県から報告があり、年齢別では0歳(55例)、1~9歳(287例)、10代(57例)、20代(22例)、30代(19例)、40代(24例)、50代(52例)、60代(80例)、70代(110例)、80歳以上(145例)であった。**咽頭結膜熱**: 報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(1.32)、富山県(1.31)、島根県(1.30)である。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は山形県(5.73)、新潟県(5.31)、富山県(4.45)である。**感染性胃腸炎**: 定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は大分県(15.11)、宮崎県(14.39)、鹿児島県(13.60)である。**マイコプラズマ肺炎**: 報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は福島県(1.71)、富山県(1.40)、青森県(1.00)、栃木県(1.00)である。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)**: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別では24都道府県から85例報告があり、年齢別では0歳(14例)、1~4歳(58例)、5~9歳(9例)、10代(3例)、70歳以上(1例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。
()内の数字は定点当たり報告数となります。

今週の全数報告疾病

1類感染症: 報告なし
2類感染症: 結核

* 男児、女児は6歳未満

仙南管内 男性2名、女性1名
塩釜管内 男児*1名
石巻管内 男性1名、女性1名
仙台管内 男性1名(第9週)、男性2名

3類感染症: 報告なし

4類感染症: A型肝炎

大崎管内 男性1名
レジオネラ症
仙台管内 男性1名(第10週)

5類感染症: 後天性免疫不全症候群

塩釜管内 女性1名
侵袭性肺炎球菌感染症
大崎管内 男性1名

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 17例

県北部で増加傾向にあり、普段はあまりみられない成人の重症例もあるので注意を要する

今週の感染症のコメント

— 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

【インフルエンザ】

仙南、塩釜、大崎、石巻、登米、仙台管内で警報継続中。

栗原管内で注意報継続中。

気仙沼管内で注意報値を超えた。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

栗原管内で警報継続中。

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

インフルエンザ患者より

塩釜管内 第10週採取分 インフルエンザウイルスAH3 遺伝子 6件

第11週採取分 インフルエンザウイルスB 遺伝子 1件

大崎管内 第11週採取分 インフルエンザウイルスAH1pdm 遺伝子 1件

感染性胃腸炎集団発生事例より

仙南管内 第11週採取分 ノロウイルスG II 3件

登米管内 第11週採取分 ノロウイルスG I 1件

栗原管内 第11週採取分 ノロウイルスG II 1件

大崎管内 第11週採取分 ノロウイルスG I 2件

感染性胃腸炎患者より

塩釜管内 第7週採取分 コクサッキーウイルス 1件、サボウイルス 1件

第8週採取分 ノロウイルスG I 1件、A群ロタウイルス 1件

第9週採取分 ノロウイルスG II 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

第9週採取分 2.24~3.2)

第10週採取分 (3.3~3.9)

第11週採取分 (3.10~3.16)

インフルエンザウイルスAH1pdm 6件 4件 0件
インフルエンザウイルスAH3 1件 5件 0件
インフルエンザウイルスB 4件 3件 0件
インフルエンザウイルス(解析中) 2件 1件 7件
RSウイルス 0件 1件 0件

【インフルエンザ】

今週の患者数は県全体でほぼ横ばいとなりましたが、仙南、石巻、気仙沼管内では増加傾向にあり、流行拡大も懸念されることから、引き続き十分な注意が必要です。さらなる予防を心がけてください。

【感染性胃腸炎】

患者数はほぼ例年並に減少傾向にありますが、依然として集団発生事例が多く、病原体も多様化しつつあるので、引き続き注意を要します。